10.1.8 人と自然との触れ合いの活動の場

1. 主要な人と自然との触れ合いの活動の場

(1)調査結果の概要

① 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

a. 文献その他の資料調査

「第3章　3.1.6　2. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況」に記載のとおりである。

② 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況

a. 文献その他の資料調査

(a) 調査地域

工事関係車両の主要な走行ルートの周囲並びに対象事業実施区域及びその周囲とした。

(b) 調査期間

入手可能な最新の資料とした。

(c) 調査方法

抽出した主要な人と自然との触れ合いの活動の場について、当該情報の整理及び解析を行った。なお、ヒアリングにより文献その他の資料調査を補足した。

(d) 調査結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況は表 10.1.8-1 のとおりである。

b. 現地調査

(a) 調査地点

「② 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況　a. 文献その他の資料調査」の調査結果を踏まえ、図 10.1.8-1 の 3 地点とした。

(b) 調査期間

令和 7 年 5 月 6～8 日に実施した。また、景観の現地調査時等にも随時状況を確認した。

(c) 調査方法

抽出した主要な人と自然との触れ合いの活動の場について現地踏査を行い、利用状況や利用環境の状況、アクセス状況等を把握した。

(d) 調査結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況は表 10.1.8-1 のとおりである。

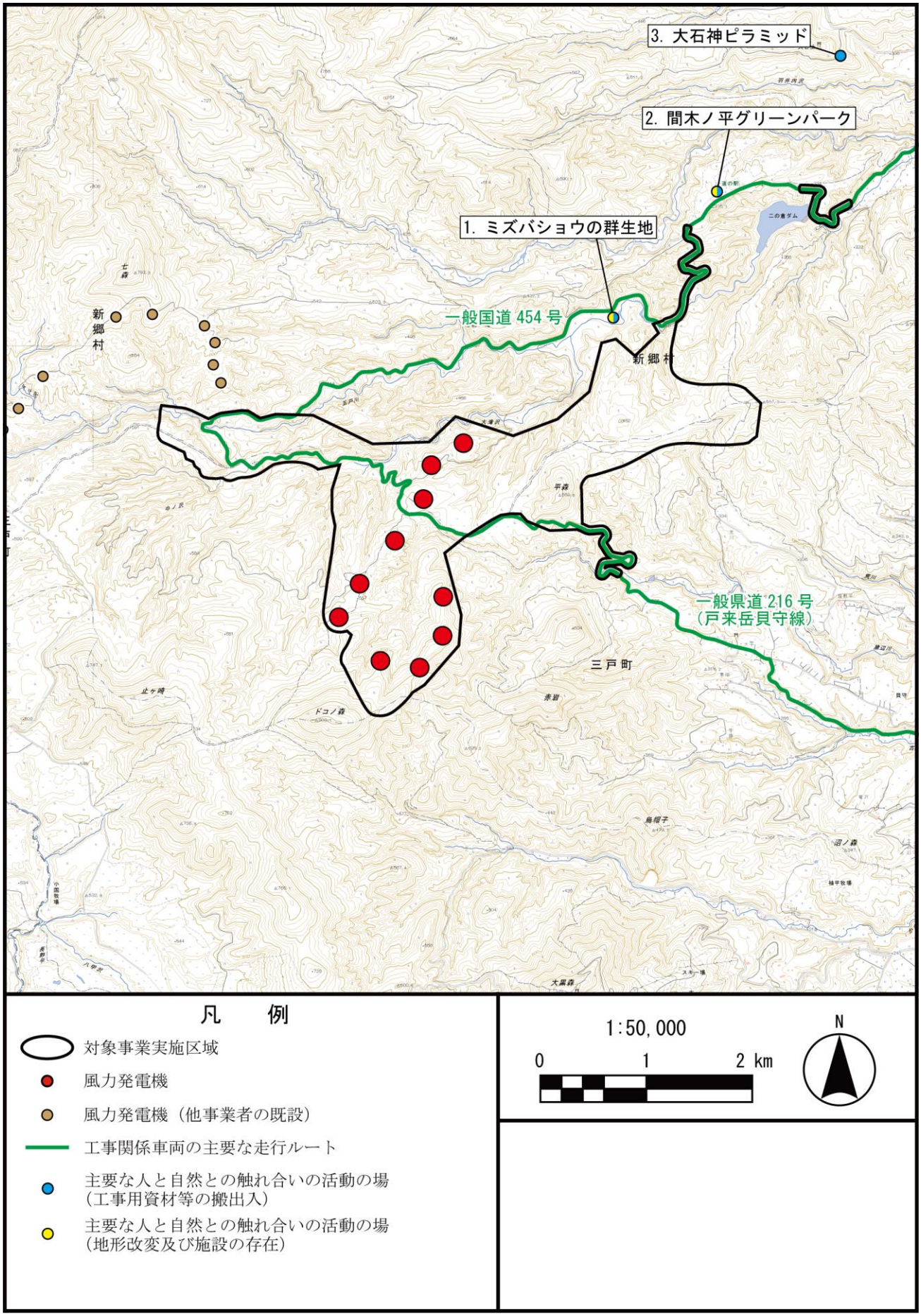


図 10.1.8-1　主要な人と自然との触れ合いの活動の場

表 10.1.8-1(1-1)　主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

1	調査項目		調査結果
ミズバショウの群生地	地点位置及びアクセスルート		・対象事業実施区域の北東側、最寄りの風力発電機から水平距離で約 1.5km の離隔に位置している。 ・工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の一般国道 454 号沿いに位置している。
	利用環境の状況	文献その他の資料調査結果	・一般国道 454 号沿いに位置するミズバショウの群生地である。 ・例年 4 月下旬～5 月上旬が見頃で、1 周約 900m の遊歩道からミズバショウを観賞することができる。
		現地調査結果	・一般国道 454 号沿いに駐車場が整備されており、10 台程度収容可能であった。本地点を示す道標は、駐車場から 500m 程度西に位置する散策路の出口近くの国道沿いで確認した。駐車場内には新郷村の案内図やクマ注意の看板があり、駐車場奥には群生地に至る遊歩道の入口を確認した。また、遊歩道の入口には本地点の案内板や看板のほか、ベンチが設置されていた。 ・遊歩道は群生地内に整備され、一部区間には木道も整備されていたものの、もろくなっている所がある旨の注意書きを確認した。また、国道沿いにも歩道とベンチが設置され、ミズバショウの観賞が可能な状況であった。 ・群生地の南側には並行して「五戸川」が流れ、川の音が聞こえる状況であった。 ・周囲は樹林に囲まれており、遠景は望めず、視界は開けていない状況であった。  ※参考：現地案内板「水芭蕉群生地案内図」
	利用の状況	利用者特性利用者数等	・統計情報や関係機関へのヒアリング等から特段情報は得られなかった。
		催事状況	・催事に関する情報は特段得られなかった。
		現地調査結果	・現地調査時、駐車場には八戸ナンバーの車両が 1 台駐車しており、犬を連れた 2 人組の利用者を確認した。なお、周辺道路の混雑は見られなかった。

表 10.1.8-1(1-2)　主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

1	調査項目	調査結果	
ミズバショウの群生地	現地の状況	 アクセス路（一般国道 454 号） ※右：群生地　※ベンチあり ※国道からも群生地を眺めることができる状況	 駐車場 ※10 台程度駐車可能　※クマ注意の看板あり ※一般国道 454 号沿いに位置
		 遊歩道入口 ※現地案内板、看板あり　※ベンチあり	 遊歩道 ※手すりの設置あり
		 ミズバショウの群生地 ※周囲は樹木に囲まれている状況	 ミズバショウの群生地 ※木道はもろくなっている旨の注意書きあり
		 ミズバショウの群生地 ※水路あり　※奥：一般国道 454 号	 本地点南側を流れている五戸川 ※川の音が聞こえる状況

表 10.1.8-1(2-1)　主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目		調査結果
間木ノ平グリーンパーク	地点位置及びアクセスルート		・対象事業実施区域の北東側、最寄りの風力発電機から水平距離で約 3.1km の離隔に位置している。 ・工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の一般国道 454 号沿いに位置している。
	利用環境の状況	文献その他の資料調査結果	・標高約 350m の高原に広がるレクリエーション施設である。 ・8 棟のバンガローやオートキャンプ場が整備され、魚のつかみどりや牛の乳搾り等の体験コースも用意されている。
		現地調査結果	・一般国道 454 号沿いに本地点の出入口が位置していた。駐車場や駐車可能なスペースが複数整備されており、オートキャンプ場内への乗入れ等も含め、計 220 台程度収容可能であった。一般国道 454 号には本地点への案内標識等が随所に設置され、アクセスしやすい状況であった。 ・パーク内には、炊事棟や管理事務所等に囲まれたふれあい広場、オートキャンプ場、フリーサイトキャンプ場、バンガロー、グラウンドゴルフコース、ふれあいの川等の屋外施設のほか、食堂、研修・休憩施設や畜産加工施設等も整備されていた。また、「道の駅しんごう」が併設されていた。 ・パーク内の大半の施設において、周囲は樹林に囲まれており、遠景は望めず、視界は開けていない状況であった。  ※参考：現地案内板「間木ノ平グリーンパーク案内図」
	利用の状況	利用者特性利用者数等	・青森県観光入込客統計（令和 6 年）によると、本地点の観光入込客数は、令和 4 年が 46,902 人、令和 5 年が 46,624 人、令和 6 年が 46,691 人であった。
		催事状況	・例年 10 月第 2 日曜日には「新郷ふるさとまつり」が開催されているほか、近年は 9 月に「ミステリーキャンプ」が開催されている。また、関係機関へのヒアリングによると、夏季は「町子ども会育成連合会キャンプ」の利用があるとのことであった。
		現地調査結果	・現地調査時、パーク内では計 20 台（八戸、岩手、秋田、青森、足立ナンバー等）の車両を確認した。利用者は計 12 組・35 名いる状況で、食事処である「とちの木荘」において多くの利用者を確認した。なお、周辺道路の混雑は見られなかった。

表 10.1.8-1(2-2)　主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目	調査結果	
間木ノ平グリーンパーク	現地の状況	 アクセス路（一般国道 454 号） ※案内標識あり	 左：道の駅しんごう、右：駐車場 ※20 台程度駐車可能　※駐車場は複数あり
		 ふれあい広場 ※周囲に炊事場や管理事務所等あり	 ふれあいの川 ※左奥：焼き魚場・トイレ等あり
		 第 1 オートキャンプ場 ※利用者あり	 芝の広場 ※奥：屋外ステージ、グラウンドゴルフ場あり
		 バンガロー ※8 棟あり	 第 1 キャンプ場 ※トイレ・炊事場・営火場あり

表 10.1.8-1(3)　主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

<table>
<tr><td>3</td><td colspan="2">調査項目</td><td>調査結果</td></tr>
<tr><td rowspan="8">大石神ピラミッド</td><td colspan="2">地点位置及び
アクセスルート</td><td>・対象事業実施区域の北東側、最寄りの風力発電機から水平距離で約 5.0km の離隔に位置している。
・工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の一般国道 454 号から脇道を入ったところに位置している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">利用環境
の状況</td><td>文献その他の資料調査結果</td><td>・山という自然の地形を利用して、頂上に方位石、太陽石、星座石、鏡石などの巨石が配置されたピラミッドである。
・5 万年前のものだと言われており、新郷村のミステリースポットとして紹介されている。</td></tr>
<tr><td>現地調査結果</td><td>・一般国道 454 号から脇道に入って 2.5km 程度のところに鳥居と案内板が設置されており、2 台程度収容可能な駐車スペースを確認した。
・一般国道 454 号には案内標識等が随所にあったほか、脇道の分岐点にも看板を確認した。
・見学コースが整備され、随所に順路や解説板が設置されていた。
・周囲は樹林に囲まれており、遠景は望めず、視界は開けていない状況であった。


※参考：現地案内板「大石神ピラミッド見学コース」を抜粋</td></tr>
<tr><td rowspan="3">利用
の状況</td><td>利用者特性
利用者数等</td><td>・統計情報や関係機関へのヒアリング等から特段情報は得られなかった。</td></tr>
<tr><td>催事状況</td><td>・催事に関する情報は特段得られなかった。</td></tr>
<tr><td>現地調査結果</td><td>・現地調査時、本地点の利用者は確認できなかった。また、周辺道路の混雑は見られなかった。</td></tr>
<tr><td>現地
の状況</td><td colspan="2">
アクセス路（一般国道 454 号）　※道標あり

鳥居　※案内板あり


順路　※随所に道標あり

巨石（鏡石）　※解説板あり</td></tr>
</table>

(2) 予測及び評価の結果

① 工事の実施

a. 工事用資材等の搬出入

(a) 環境保全措置

工事用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

- 工事関係者の通勤は、乗り合いの促進により、工事関係車両台数の低減に努める。
- 工事工程の調整等により、工事関係車両のピーク時の台数の低減に努める。
- 周辺道路の交通量を勘案し、可能な限りピーク時を避けるよう調整する。
- 急発進、急加速の禁止及びアイドリングストップ等のエコドライブの実施を徹底する。また、人と自然との触れ合いの活動の場付近を通行する際及び利用者を見かけた際の減速を徹底する。
- 関係機関等に随時確認を行い、イベント等により工事関係車両の主要な走行ルートにアクセスが集中する可能性がある場合には、該当日並びに該当区間において工事関係車両の走行を可能な限り控えることを含め、配慮する。
- 定期的な会議等の実施により、工事関係者へ環境保全措置の内容を周知徹底する。

(b) 予　測

ｱ. 予測地域

工事関係車両の主要な走行ルートの周囲とした。

ｲ. 予測地点

現地調査を実施した3地点（ミズバショウの群生地、間木ノ平グリーンパーク、大石神ピラミッド）とした。

ｳ. 予測対象時期

工事計画に基づき、工事関係車両の交通量が最大となる時期とした。

ｴ. 予測手法

環境保全のために講じようとする措置を踏まえ、工事用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスルートにおける交通量の変化を予測し、利用特性への影響を予測した。

ｵ. 予測結果

予測結果は表 10.1.8-2 のとおりである。

表 10.1.8-2　主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響の予測結果
（工事用資材等の搬出入）

番号	予測地点	予測結果
1	ミズバショウの群生地	本地点は、工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の一般国道 454 号沿いに位置している。 本地点周辺の一般国道 454 号は 448 台/12 時間程度の交通量がある一方、本事業による工事関係車両の交通量は基礎コンクリートの打設日（ピーク時）で 356 台/14 時間であり、工事期間中の交通量は最大で現況の約 1.68 倍であると予測する。 また、基礎コンクリートの打設日は 1 基当たり 2 日程度と短期間であること、「急発進、急加速の禁止及びアイドリングストップ等のエコドライブの実施を徹底する。また、人と自然との触れ合いの活動の場付近を通行する際及び利用者を見かけた際の減速を徹底する」等の環境保全措置も講じることから、工事用資材等の搬出入により本地点の利用及びアクセスは阻害されないと予測する。
2	間木ノ平グリーンパーク	本地点は、工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の一般国道 454 号沿いに位置している。 本地点周辺の一般国道 454 号は 448 台/12 時間程度の交通量がある一方、本事業による工事関係車両の交通量は基礎コンクリートの打設日（ピーク時）で 356 台/14 時間であり、工事期間中の交通量は最大で現況の約 1.68 倍であると予測する。 また、基礎コンクリートの打設日は 1 基当たり 2 日程度と短期間であること、「関係機関等に随時確認を行い、イベント等により工事関係車両の主要な走行ルートにアクセスが集中する可能性がある場合には、該当日並びに該当区間において工事関係車両の走行を可能な限り控えることを含め、配慮する」等の環境保全措置も講じることから、工事用資材等の搬出入により本地点の利用及びアクセスは阻害されないと予測する。
3	大石神ピラミッド	本地点は、工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の一般国道 454 号から脇道を入ったところに位置している。 本地点周辺の一般国道 454 号は 448 台/12 時間程度の交通量がある一方、本事業による工事関係車両の交通量は基礎コンクリートの打設日（ピーク時）で 356 台/14 時間であり、工事期間中の交通量は最大で現況の約 1.68 倍であると予測する。 また、基礎コンクリートの打設日は 1 基当たり 2 日程度と短期間であること、「急発進、急加速の禁止及びアイドリングストップ等のエコドライブの実施を徹底する。また、人と自然との触れ合いの活動の場付近を通行する際及び利用者を見かけた際の減速を徹底する」等の環境保全措置を講じることから、工事用資材等の搬出入により、本地点の利用及びアクセスは阻害されないと予測する。

注：1. 表中番号は、図 10.1.8-1 に対応する。
　　2. 交通量については、「第 3 章　3.2.4 交通の状況」を参照した。

(c) 評価の結果

ｱ. 環境影響の回避、低減に関する評価

工事用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するための環境保全措置は、以下のとおりである。

・工事関係者の通勤は、乗り合いの促進により、工事関係車両台数の低減に努める。
・工事工程の調整等により、工事関係車両のピーク時の台数の低減に努める。
・周辺道路の交通量を勘案し、可能な限りピーク時を避けるよう調整する。
・急発進、急加速の禁止及びアイドリングストップ等のエコドライブの実施を徹底する。また、人と自然との触れ合いの活動の場付近を通行する際及び利用者を見かけた際の減速を徹底する。
・関係機関等に随時確認を行い、イベント等により工事関係車両の主要な走行ルートにアクセスが集中する可能性がある場合には、該当日並びに該当区間において工事関係車両の走行を可能な限り控えることを含め、配慮する。
・定期的な会議等の実施により、工事関係者へ環境保全措置の内容を周知徹底する。

上記の環境保全措置を講じることにより、工事用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

② 土地又は工作物の存在及び供用

a. 地形改変及び施設の存在

(a) 環境保全措置

地形改変及び施設の存在に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

・風力発電機は、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している地点から可能な限り離隔をとった配置計画とする。
・事業の実施に伴う土地の改変並びに樹木の伐採は最小限とし、造成により生じた切盛法面は適切な緑化を行い、修景を図る。
・風力発電機は、周囲の環境になじみやすいような環境融和色（グレー系）に塗装する。

(b) 予　測

ｱ. 予測地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

ｲ. 予測地点

現地調査を実施した 2 地点（ミズバショウの群生地、間木ノ平グリーンパーク）とした。

ｳ. 予測対象時期

すべての風力発電施設等が完成した時期とした。

ｴ. 予測手法

環境保全のために講じようとする措置を踏まえ、主要な人と自然との触れ合いの活動の場について、分布及び利用環境の改変の程度を把握した上で、利用特性への影響を予測した。

ｵ. 予測結果

予測結果は、表 10.1.8-3 のとおりである。

表 10.1.8-3　主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響の予測結果

（地形改変及び施設の存在）

番号	予測地点	予測結果
1	ミズバショウの群生地	本地点に直接的な改変は及ばない。 また、「風力発電機は主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している地点から可能な限り離隔をとった配置計画とする」との環境保全措置を講じ、最も近い風力発電機から水平距離で約1.5kmの離隔を確保していること、周囲は樹林に囲まれ、視界は開けていない状況であることから、地形改変及び施設の存在により現況の利用は阻害されないと予測する。
2	間木ノ平グリーンパーク	本地点に直接的な改変は及ばない。 また、「風力発電機は主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している地点から可能な限り離隔をとった配置計画とする」との環境保全措置を講じ、最も近い風力発電機から水平距離で約3.1kmの離隔を確保していること、パーク内の大半の施設において、周囲は樹林に囲まれており遠景は望めず、視界は開けていない状況であることから、地形改変及び施設の存在により現況の利用は阻害されないと予測する。

注：表中番号は、図 10.1.8-1 に対応する。

(c) 評価の結果

ｱ. 環境影響の回避、低減に関する評価

地形改変及び施設の存在に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するための環境保全措置は、以下のとおりである。

- 風力発電機は、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している地点から可能な限り離隔をとった配置計画とする。
- 事業の実施に伴う土地の改変並びに樹木の伐採は最小限とし、造成により生じた切盛法面は適切な緑化を行い、修景を図る。
- 風力発電機は、周囲の環境になじみやすいような環境融和色（グレー系）に塗装する。

上記の環境保全措置を講じることにより、地形改変及び施設の存在に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。